



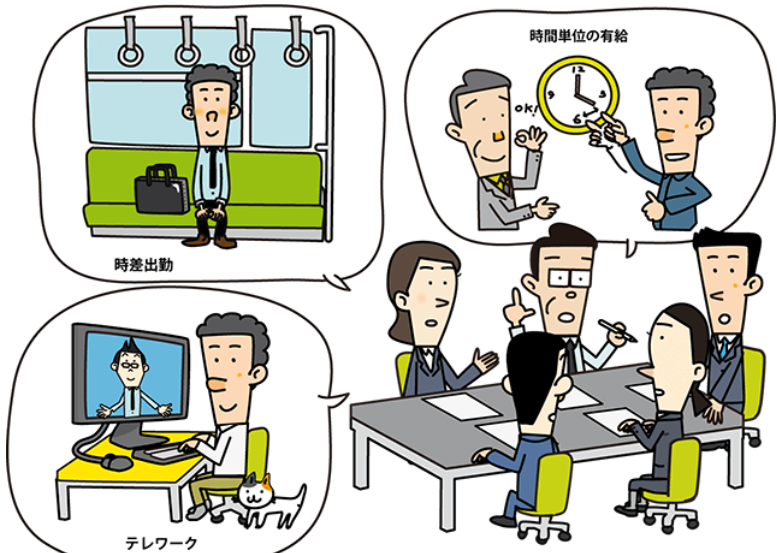
治療就労 両立支援とは

病気を抱えながらも、働く意欲・能力のある労働者が仕事を理由として治療の機会を逃すことなく、また、治療の必要性を理由として職業生活の継続を妨げることなく、適切な治療を受けながら、生き生きと就労を続けることを支援することです。

急激な少子高齢化に直面している我が国では、労働力人口は既に減少に転じています。そんな中、治療が必要な病気を抱えてベテランの従業員が退職する事態になれば企業は痛手です。適切な治療を受けてもらい、なれた仕事が続けられるようにすることが両立支援です。

① 両立支援の取組方法

1 休暇制度、勤務制度の整備



- ② 労働者から支援を求める申し出があった場合の対応手順、関係者の役割整理（人事担当者・上司・同僚・主治医）
- ③ 関係者間の円滑な情報共有の為に仕組みづくり（必要な就業上の措置及び治療に対する配慮について医師の意見を求めるなど関係者間の連携。）
- ④ 両立支援に関する制度や体制の実効性の確保（労働者から両立支援の申出、相談を受けた際の対応方法や支援制度・体制の周知）



弊社では、幸いに該当社がいまませんが、仕事との両立支援における「介護」「子育て」においても将来支援していかなければならなくなると考えられます。

KDSウォークラリー 10月結果報告

1日平均		1日平均	
1位 K所長	8617 歩	2位 T理事	8126 歩
3位 Uさん	8092 歩	4位 Y	5690 歩
5位 U社長	5377 歩	6位 T専務	4875 歩
7位 M副部長	4825 歩		

生活習慣改善表彰

社員で
1番



去る9月29日、生活習慣改善表彰が行われました。昨年と今年の健康診断の結果を比較して1番改善された管理部のUさんに賞状と空気清浄機が贈られました。おめでとうございます。

☆私の健康法！



取締役営業部長
打出 拓真（息子 陵真くんと）

私の健康法の紹介とのことですが、現状私は全く健康に意識して生活はしていません。

ですので、今後やろうと思っている体幹トレーニングについて紹介します。

体幹を鍛えると以下の利点があるといわれています。

- ① 良い姿勢を保てるようになる
 - ② 体型維持に役立つ
 - ③ 体の動きがスムーズで効率的になる
 - ④ 腰痛の予防・改善が期待できる
 - ⑤ 内臓のはたらきが良くなる
- 10代20代は昔取った杵柄で60kg前半の体重をキープ。体脂肪率も15%程をキープしていましたが、30代を過ぎたあたりから筋肉量も低下し、体重も増える傾向にあります。

ですので、腹筋や背筋などの体の中でも比較的大きな筋肉をまず鍛えることで、脂肪が燃焼しやすい体になっていきます。

また、日ごろお酒を飲む機会も多いので、内臓の働きを強化していきたいと考えています。

なかなか、運動をする時間を取れてはいませんが、毎日の積み重ねが大切だとも思いますので、少しずつ継続していければと考えています。



ウォークラリー表彰方法を変えたところ劇的に歩数が増えました。プロセスを変えるって必要ですね。

管理部 山岸

編集後記

